

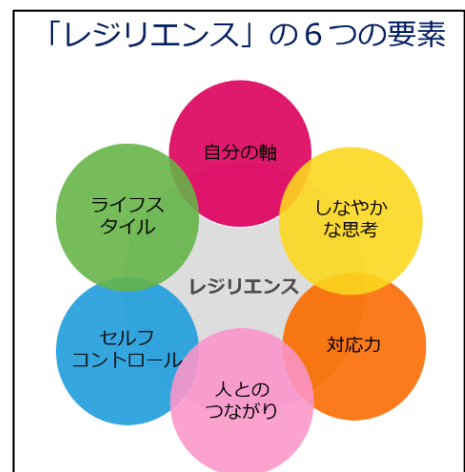


変化にしなやかに対応し、たくましく

「体感時間と年齢は反比例する。50歳の人間にとって1年の長さは人生の50分の1ほどであるが、10歳の人間にとっては10分の1に相当する。よって、50歳の人間にとっての10年間は10歳の人間にとっての2年間に当たり、10歳の人間の1日が50歳の人間の5日に当たることになる」。これは、ジャンネーの法則と言われるものです。

私たち大人の体感時間と異なって、子どもたちの1日の時間は、ゆっくり、ゆったり流れています。これは、中学生期が多感な時期である所以の一つかもしれませんし、時間を気にすることなく何かに没頭できる子ども期ならではの特権かもしれません。大人なら誰もが通過したかけがえのない時期です。

学校再開から3週間程が経ちました。生徒は、新しい環境や仲間、大中の職員にも少しずつ馴れてきた頃だと思えます。併せて、新しい生活様式を受け入れ、慣れることも余儀なくされました。生徒は柔軟でしなやかです。変化に対応し、順応する力を持っています。個人差こそありますが、そういう力を引き出して生活しています。一方で、人間は環境の変化に弱い動物とも言われます。現代社会・経済の変化はかつてのようにゆっくりとしたものではなく、速いというよりも加速している感があります。それだけに、悩みやストレスは当然多く、外力によってもたらされた自己の歪みを修正する力が必要になってきます。これはレジリエンスと呼ばれるもので、本校ではこの力をいっそう鍛えるために、年間を通して養護教諭が中心となって継続的な指導を進めています。



ご存じのように、本年度の中体連夏季大会や発表会は中止となりました。残念でありませんが、7月末にこれに代わるものを田方地区で計画しています。もちろん、内容や開催方法は平常時とは異なります。しかし、生徒にはしなやかにこの変化を受けとめ、対応してほしいと思っています。予期せぬ変化はできることなら避けたいところですが、今や変化は当たり前ととらえることが必要だと考えます。そうでないと疲弊する一方ですから。

6月第1週に、生徒会執行委員並びに専門委員長に任命書を手渡しました。その際、前期生徒会の活動を企画・実行するにあたり、「プラス思考」と「創造」をキーワードとして提示しました。学校生活が斬新なアイデアで彩られていくことが楽しみです。1日は24時間ですが、生徒には大人以上に長い体感時間です。時は金なり。貴重な時間を自分の成長のために有効に使うことを願ってやみません。夢を拓くために。 (文責 校長)

かしわ祭に向けて

今年度は、かしわ祭体育の部を10月10日(土)に、合唱コンクールを10月2日(金)に行います。新型コロナウイルス感染予防をしての開催になるので、通常と同じようには実施できません。生徒たちも、生徒会執行部(生徒会長 三浦さん、副会長 小川さん 井上さん、執行委員 西島さん 山田さん 諸伏さん 梶山さん)を中心に、これから話し合いが始まります。知恵を出し合い、新しいかしわ祭創りが始まります。

三浦生徒会長の抱負：生徒会執行部としては、種目の変更など、最善を尽くして話し合いを進めていこうと思います。全校で一丸となり、すばらしいかしわ祭を創り上げましょう。

縦割り決定

現在、学校では、集会を全体で行っていません。そこで、今回の生徒集会は、テレビ放送を使って行いました。

赤組	3-2	2-2	1-2
青組	3-3	2-3	1-4
黄組	3-1	2-4	1-1
緑組	3-4	2-1	1-3



わかりやすい授業を目指して



本年度より各教室に電子黒板が入りました。教育現場でのICTとは、パソコン、プロジェクタ、電子黒板などのハードウェアから、無線LAN、デジタル教科書、学習用ソフトウェアまで多岐にわたります。本校では、休校期間中に、長井教諭を中心に研修を進めました。ICT教育の目的は、わかりやすい授業の実現です。子供たちの確かな学力を育成するためには、よりわかりやすい授業を実現することが重要です。ICTを効果的に使うことで、視覚や聴覚に訴えかける臨場感のある学びを実現していきたいと考えています。



ホームページをご覧ください

右のQRコードを読み取ると簡単にホームページを見ることができます。週1回は更新し、生徒の活動の様子をお伝えしています。休校中は、学習コンテンツとしても活用しました。

